

第58回 経営協議会 議事要録

日 時 平成28年10月27日（木）14時00分～15時15分

場 所 事務局第二会議室

出席者 澤 和樹 学長、門岡裕一 理事
日比野克彦 美術学部長、迫 昭嘉 音楽学部長
桐山孝司 大学院映像研究科長

石田義雄 委員、中村胤夫 委員、遠山敦子 委員
福井俊彦 委員、高階秀爾 委員、滝 久雄 委員、谷口維紹 委員

陪 席 監事：梅崎 壽 幹事、金井 満 監事

安良岡章夫 理事、保科豊巳 理事
光井 渉 副学長、松下 功 副学長
熊倉純子 大学院国際芸術創造研究科長
三田村有純 グローバルサポートセンター長 [学長特命（国際交流担当及び留学生担当）]
佐野 靖 学長特命（地域連携・大学連携担当）]
岡本美津子 学長特命（広報・ダイバーシティ推進担当）
橘 芳久 学長特別補佐（機能強化担当）
松下 計 附属図書館長、秋元雄史 大学美術館長

欠席者 国谷裕子 理事
宮廻正明 社会連携センター長 [学長特命（産学連携担当）]
北郷 悟 学長特別補佐（上野文化の杜担当）

議題

1. 平成28年度人事院勧告への対応について
議長から標記のことについて提案があり、門岡理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
2. 規則等の改正について
 - ・東京藝術大学会計通則等の一部を改正する通則等の制定について（案）議長から標記のことについて提案があり、門岡理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

報告及び連絡事項

1. 東京藝術大学澤和樹学術研究基金に関する要項の制定について

澤学長より、資料に基づき報告があった。

2. 平成 29 年度概算要求について

門岡理事より、資料に基づき報告があった。

3. 平成 28 年度補助金等の採択状況について

門岡理事より、資料に基づき報告があった。

4. その他（本学の取組について）

○ 澤学長から、藝術文化における本学の近況について報告があった。

（イベント等）

・ 2016/9/20 「ヨーヨー・マと仲間たちによる討論会」を開催

・ 2016/10/16 響ホール室内合奏団定期演奏会（in 熊本県）に澤学長が参加

（学生等の受賞等）

・ フランツ・リスト国際ピアノコンクール -ブタペスト国際音楽コンクール第 1 位受賞

・ ビエニャフスキ国際バイオリンコンクール第 2 位受賞

・ パリ国際アニメーション映画祭にて本学映像研究科アニメーション専攻第七期修了生 学生部門大賞受賞

・ 第 10 回アジア青年漫画・アニメとデジタルアートコンテスト（AYACC）にて本学映像研究科アニメーション専攻第六期修了生 アニメ部門大賞受賞

（早期教育プロジェクト）

・ 2016/7/23 早期教育プロジェクト in 上野

・ 2016/7/26 ～ 27 早期教育プロジェクト in 札幌

・ 2016/8/31 早期教育プロジェクト in 金沢

・ 2016/9/3 早期教育プロジェクト in 和歌山

（要人来学実績他）

・ 2016/6/10 山口那津男参議院議員が藝大 COI 拠点を視察

・ 2016/8/23 樋口文部科学省大臣政務官が藝大を視察

（その他）

・ 2016/10/25 高円宮久子妃殿下が藝大大学美術館で「驚きの明治工芸展をご観覧

・ 2016/10/26 文部科学省高等教育局国立大学法人支援課国立大学戦略山田室長が本学を視察

○ 澤学長より、9 ～ 10 月にかけて美術学部各研究室の教育現場を視察・意見交換を行った旨報告があった。今後は映像研究科等にも視察・意見交換を行う予定。

○ 松下副学長より、東京藝術大学創立 130 周年シンボルマークデザイン募集」を行っている旨報告があった。

○ 桐山大学院映像研究科長から、資料に基づき、「アニメーション専攻第八期生修了制作展」「コンテンポラリーアニメーション入門」「馬車道コンサート」について報告があった

- 三田村学長特命より、資料に基づき、「Challenge Art in Japan 2016 環状の岸边」
「三田村有純教授退任記念展」について報告があった。

その他：(各外部委員の先生方からのご助言、ご提言等)

- 東京藝術大学として世の中に対して様々な活動・取組が発信されているが、極めて大事であるので、引き続き力を注いで欲しい。また今回記載されているような世界的なコンクールの受賞情報を効果的な内外への発信を引き続き展開していただきたい。
- 早期教育等の各県に行って美術・音楽等が若手の発掘等を行ってしていることについて、地方においても藝大を核としたネットワーク作り・連携を引き続き広げて欲しい。
2020東京オリンピックを控えて文化・芸術において、非常にいいチャンスであるので、目に見える形で発信していただきたい。
- 藝大がSGUに採択され、大きな国際化がメディアを含めて注目されている。
また、藝大が国から様々な予算獲得をされているという姿勢が非常に大事なこと。
国内でのアートフェスティバル等の行事においても自ら行くだけではなく地方自治体からお声がかかれば動けるような仕組みを作って欲しい。
- 国際化において、藝大の指標についてを満たしていくというのが実体的なグローバル化に繋がるのかが疑問である。グローバル化というのであれば、学生は入学したその日からグローバルのコミュニケーションが始まるべきであり、藝大の先生方は日々海外とのコミュニケーションネットワークをもっている中で、その中でリーダーシップを発揮していくようであれば、点数を満たすだけでは実態は進まないのではないか。
- 上野の杜文化構想についてのご意見。西洋美術館の世界遺産登録や今後の2020東京オリンピック等という上野という場所を生かして今後も盛り上げて欲しい。
- 9月20日の討論会イベントの御礼。
グローバル化の問題で文科省の設定した目標は無視できないが、数値目標を定めて達成すればいいのでは決してないのが大学のグローバル化の根幹にあるのではないか。
求められるのが量的でなく質的なグローバル化。藝大の中にもいろいろな分野があるので、それぞれに即したグローバル化の意味を見据えてアピールしていくのが大事。
また東京藝術大学憲章というものを一度ご検討いただき、ビジョンを共有されることも重要ではないか。
グローバル化の時代を考えても連携が少ない「外務省との連携」という芸術外交が今後必要である。